

# トップが語る

# 中丹技術支援室を紹介します

中丹技術支援室 室長 坂之上悦典

## 中丹技術支援室の取り組みについて、立地の現状とあわせて説明します。

当室は、JR綾部駅から徒歩5分の綾部市中心部にあり、平成19年6月の開設以来、7年目を迎えています。平成25年4月の名神高速道路と京都縦貫道の接続により、京阪神地区へのアクセスがきわめて良くなりました。開設当初は、技術職員2名、事務職員1名の3人体制でしたが、各方面の尽力により技術職員3名を含め7名体制(最大時)となっています。この職員により、年間1,500件を越える機器利用(機器貸付)や相談(電話相談を含む)に対応しています。



中丹地域における製造業の全般的な特徴として、1)中・小部品の小口生産、2)提供される図面に基づく賃加工、3)工業団地に立地する大企業の製造工場と地場の機械部品製造の中小企業群の存在、4)30～40年の歴史を有する企業が比較的多い、等が挙げられますが、これも、中核企業群が複数存在する福知山市域、長大物の加工が得意な舞鶴市域、小口機械加工が得意な綾部市域という具合にそれぞれの地域特徴があります。

域内企業の利用形態としては、1)セミナー・講演会への参加(新技術情報の収集機関としての役割)、2)品質管理上問題が発生したときに、自ら計測・評価機器を操作し現象の解析を行う(品質管理の別室としての役割)、3)品質管理上問題が発生したときに、職員の知識・知恵を用いての課題解決(品質管理コンサルタントの役割)、4)新機種、新製品の製造方法考案(デザイン・設計課としての役割)、5)開催されている研究会を通じて、自社のビジネス対象の拡大をはかる(異業種交流の役割)があります。

特に日本でのものづくりを継続するため、域内企業に対し、多分野での技術職員をそろえ様々な角度から助言を与えることが可能な点で「3)品質管理コンサルタントの役割および4)デザイン・設計課としての役割」は重要であると考えています。

中丹地域では、通常の技術支援体制に加え、地域企業のものづくり体制を強化するため、「ものづくりパーク推進事業」を実施しています。内容としては地域の特色ある農産物を加工し付加

価値の高い商品の提供を目的とした“米粉製粉機製造開発支援”、地域の未利用エネルギー資源を有効活用することを目的とした“スパイラーを用い



人気のQC講座

たマイクロ水力発電機の開発支援”、地域の福祉施設におけるお困りごとを解決することをテーマに社会福祉用具の開発を行う“介護・福祉研究会”を実施しています。

今後とも地域製造業のお困りごとを共に考える「智の拠点」としてご利用をお待ちしています。



試作した米粉製粉機と米粉パン(H24年 福知山産業フェア出展)



介護・福祉研究会で試作し介護施設に設置した擬壁画

お問い合わせ先

京都府中小企業技術センター 中丹技術支援室 TEL:0773-43-4340 FAX:0773-43-4341 E-mail:chutan@mtc.pref.kyoto.lg.jp